

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 10 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25360057

研究課題名(和文) ジェンダーの視点からみた更年期不定愁訴の新しいニーズアセスメント指標の開発

研究課題名(英文) Development of a new needs assessment indicator for menopausal symptoms from the viewpoint of gender

研究代表者

島本 太香子 (SHIMAMOTO, Takako)

奈良大学・社会学部・教授

研究者番号：70254505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、更年期女性にみられる様々な不定愁訴を、心理学的社会的側面からとらえ直し、患者の主体的な生き方と希望とその実現のために必要な支援を考慮した新しいニーズアセスメント指標を開発することで、患者の主体的な症状との向き合い方と医療と関連領域の専門職や支援者の共通理解と全人的ケアの実現に資することを目的として実施した。

今回の研究から、更年期障害の評価には、BSRIを用いたジェンダー役割意識と自己評価の類型化、対人関係構築傾向の指標を用いたパーソナリティの類型化をアセスメント指標に加えることで、女性自らのセルフケアの向上および関係者による愁訴の共通理解の促進に活用できる可能性が示された。

研究成果の概要(英文)：This research aims to clarify the various complaints seen in women in menopausal periods from the psychological and sociological aspects and to develop a new needs assessment indicator that takes into consideration the necessary support to achieve patient's way of life and wish. Developing such an indicator should improve the way by which women recognize subjective symptoms and common understanding among professionals and supporters in medical and related fields, and contribute to the realization of total human care.

The results of this research suggest that, by adding the typing of gender roles, self-evaluation tendency, and personality to the assessment index, it would be possible to improve self-care by women in menopausal periods and to promote common understanding of the ailments by professionals and supporters involved in their care.

研究分野：女性医学

キーワード：女性医学 ヘルスケア 不定愁訴 更年期障害 QOL ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

生涯にわたる女性の健康の中で更年期は内分泌的な環境が変動する生物学的な転機である。この時期に出現する多様な症状が Quality of life(QOL)を低下させるだけでなく、心身ともに女性としての半生を総括し老年期へ向かう移行期として、その後続く人生の QOL をも左右する重要な節目である。

女性医療の現場では既存の画一的な評価指標のみでは各患者固有の疾患像に対応した的確な治療の見通しを立てるのに苦慮されることが多く、個別の社会的心理的要因を明確に反映した評価指標や支援の指針の創出が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、更年期女性にみられる様々な不定愁訴を、心理学的社会的側面からとらえ直し、患者の主体的な生き方と希望とその実現のために必要な支援を考慮した新しいニーズアセスメント指標を開発することで、患者の主体的な症状との向き合い方と医療と関連領域の専門職や支援者の共通理解と全人的ケアの実現に資することを目的としている。

3. 研究の方法

- (1)総合病院の人間ドックを受診した 40-60 代の女性、女子大学生に対して、婦人科学的な自覚症状とジェンダー特性、心理学的特性に関するアンケートを実施、集計・分析した。
- (2)閉経期女性の自覚する不定愁訴や症状は、日本産婦人科学会の「日本人女性の更年期症状評価表」を用いた。
- (3)ジェンダー特性の尺度として BSRI (Bem's Sex Role Inventory ; 「男性性」(masculinity) と 「女性性」(femininity) を数値化し、「性役割」(sex role) を評価) の日本語版を用いた。
- (4)ジェンダー特性の形成にはパーソナリティの違いが深く関わっていると考えられ、心理学的要因の評価として Valency Assessment Test「原子価査定テスト VAT」(Hafsi が Stockらの Reaction to Group Situation Test に基づき、開発した文章完成法による投影テスト) を用いた。
- (5)ジェンダー特性と更年期障害の関連、更年期障害の医療と社会文化的な背景の欧米と日本の比較研究について文献検索を実施した。

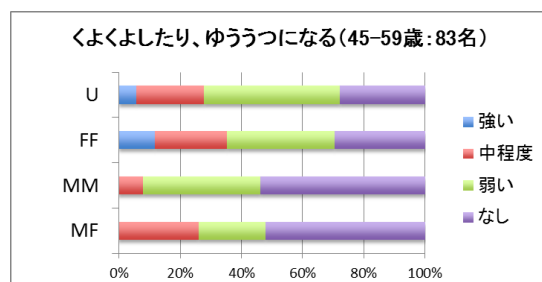
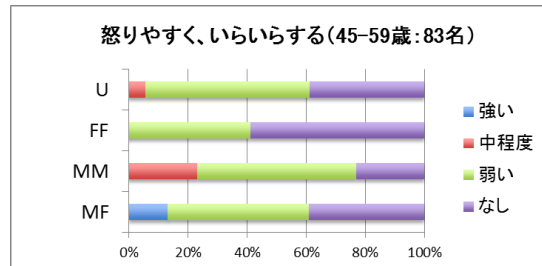
4. 研究成果

(1)閉経期女性の不定愁訴とジェンダー特性の関連

対象者の BSRI の男性性の点数、女性性の点数の中央値を境界にして各人のジェンダー特性を 4 つの群に分けた。つまり、男性性・女性性ともに高い MF 群 (masculine)、男性性・女性性ともに低い U 群 (undifferentiated)、男性性のみ高い MM 群

(androgynous)、女性性のみ高い FF 群 (feminine) である。

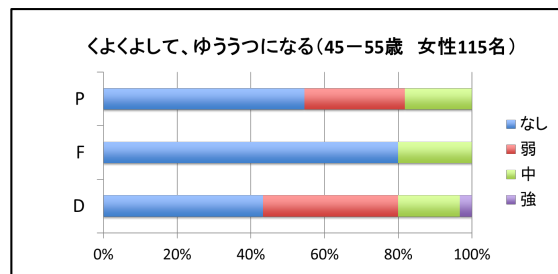
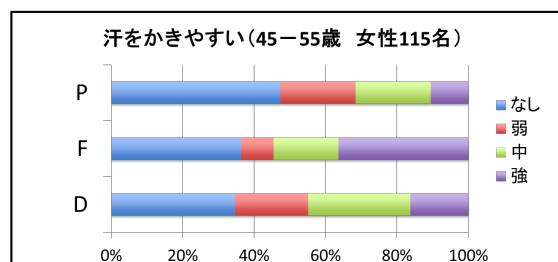
閉経期の一般女性では、ジェンダー特性のタイプにより、自覚される症状の頻度や重症度に違いが認められた。以下にその一例を示した。



(2)閉経期女性の不定愁訴と心理学的背景、対人関係構築指標の関連

各個人の対人関係を構築する際の特性を VAT の 4 要素を数値化し、最も得点の高い要素により 4 つのタイプに分けた。すなわち「依存(Dependency)」が最も高いものを D タイプ、「闘争(fight)」は F タイプ、「逃避(flight)」は FL タイプ、「つがい(pairing valency)」は P タイプとした。

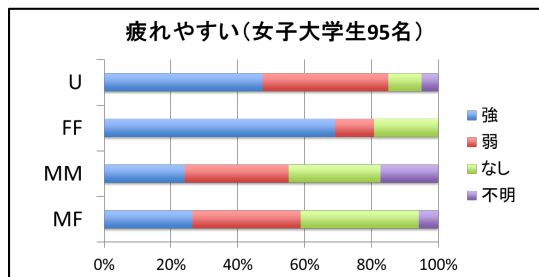
閉経期の一般女性では、対人関係の構築特性のタイプにより、自覚される症状の頻度や重症度に違いが認められた。以下にその一例を示した。



(3)若年女性の月経関連の自覚症状とジェンダー特性の関連

一般の若年女性として女子大学生で、

BSRI を用いたジェンダー特性の 4 タイプによって、月経に関連して自覚される様々な症状の頻度や重症度に違いが認められた。以下にその一例を示した。



(4)セルフケアへの活用

診療の場で個人のジェンダー特性と VAT による対人関係構築の傾向の結果を説明することで、他者とのつながり方の傾向やジェンダー意識という自分の心理学的、性格的傾向(パーソナリティ)を客観的に知り、また自分とよく似た傾向の人間の自覚しやすい症状や重症度の自覚のされ方に関する集計結果を知ることで、自己理解が深まったと感想を述べる事例が多い。自己理解が進むことで、生活の質(QOL)を低下させていた自覚症状との付き合い方を自分なりに工夫、予防し、適切に対処するセルフケアが可能となっている。

(5)まとめ

これまでの研究から、更年期障害の評価には、BSRI を用いたジェンダー役割意識と自己評価の類型化、対人関係構築傾向の指標を用いたパーソナリティの類型化をアセスメント指標に加えることで、女性自らのセルフケアと関係者による共通理解に活用できる可能性が示された。

ジェンダー尺度の健康感に与える影響については、欧米と日本のデータの比較は社会的文化的背景の差異を考慮し慎重であるべきであり、また今後は日本でのジェンダーという言葉自体の議論のされ方の変化や世代間の認識の違いも考慮する必要性が考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

島本 太香子 ジェンダーの視点からみた更年期障害: 第一報 対人関係構築傾向の指標(VAT)と自覚症状の関係について、奈良大学紀要、査読無、45 巻、2017、43-53

島本 太香子、Hafsi Med、田原 武彦 大学生における主観的健康度および精神健康度の分析 男女差と経時変化、奈良大学総合研究所所報、査読無、23 巻、2015、43-53

[学会発表](計 12 件)

島本 太香子他 乳幼児を育児中の女性

に必要なヘルスケアをジェンダーの視点から考察する、第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会、2017 年 4 月 14 日、広島市

島本 太香子他 乳幼児を持つ母親のジェンダー特性と月経関連の症状について、第 31 回日本女性医学学会学術集会、2016 年 10 月 27 日、京都市

島本 太香子他 ジェンダーの視点からみた若年女性の健康感と婦人科学的自覚症状、第 68 回日本産科婦人科学会学術講演会、2016 年 4 月 23 日、東京都千代田区

島本 太香子他 若年女性のジェンダー特性と月経関連の自覚症状について(第一報)、第 30 回日本女性医学学会学術集会、2015 年 11 月 8 日、愛知県名古屋市

島本 太香子他 ジェンダー特性と閉経期の不定愁訴との関連(第一報)、第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会、2015 年 4 月 11 日、神奈川県横浜市

島本 太香子他 女子大学生の月経関連症状と健康感・ジェンダー意識に関する考察、第 61 回日本学校保健学会学術大会、2014 年 11 月 16 日、石川県金沢市

島本 太香子他 閉経期の主観的健康度とその活用について、第 29 回日本女性医学学会学術集会、2014 年 11 月 1 日、東京都千代田区

島本 太香子他 女性医療における閉経期ヘルスケアの指標の検討、第 73 回日本公衆衛生学会総会、2014 年 11 月 6 日、栃木県宇都宮市

島本 太香子他 若年女性の月経随伴症状と主観的健康度の関連について、第 55 回日本母性衛生学会学術集会、2014 年 9 月 13 日、千葉市幕張

島本 太香子他 閉経期のヘルスケアにおける新しい心理的指標と主観的健康指標の活用、第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会、2014 年 4 月 19 日、東京都千代田区

島本 太香子 地域における女性医療の役割と課題、第 72 回日本公衆衛生学会総会、2013 年 10 月 25 日、三重県津市

島本 太香子他 女性医療への心理学的指標の活用と評価、第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会、2013 年 5 月 11 日、札幌市

6. 研究組織

(1)研究代表者

島本 太香子 (SHIMAMOTO, Takako)
奈良大学・社会学部心理学科・教授
研究者番号: 70254505

(2)研究分担者

(3)連携研究者

HAFSI Med (HAFSI, Med)
奈良大学・社会学部心理学科・教授
研究者番号: 00210104
(平成 26 年度まで)

田原 武彦 (TAHARA, Takehiko)
奈良大学・教養部・教授
研究者番号：80207208

(4) 研究協力者

湯川 隆子 (YUKAWA, Takako)
奈良大学・元教授・非常勤講師
(平成 27 年度から)

島本 郁子 (SHIMAMOTO, Ikuko)
奈良県立医科大学・産婦人科・臨床教授

山口 祐 (YAMAGUCHI, Yu)
Sanford Burnham Medical Research
Institute CA, USA・教授